



特集

# 文化庁×京都 ～京都移転と新・文化庁～

2016年3月、文化庁の京都移転が決定、2021年度中をめどに全面的な移転が予定されています。その先行移転組織として京都・東山の地に設置された「文化庁地域文化創生本部」が稼働を始めて2年。文化庁の京都移転に向けた準備状況と共に、地域文化創生本部の活動をご紹介します。

## 文化庁地域文化創生本部

〒605-8505 京都市東山区  
東大路通松原上る三丁目毘沙門町43-3  
TEL.075-330-6720(代表)

**事務局** (2019年4月1日現在)  
約43名

文化庁のほか外務省・農林水産省・厚生労働省・国土交通省、  
地方公共団体(京都府、京都市、関西広域連合(滋賀県、奈良県、和歌山県、  
兵庫県、堺市、神戸市)、札幌市)、大学や京都企業、経済団体の職員で構成



## 本格移転先 (2021年度中の移転を目指す)



## 文化庁とは



舞台芸術活動等の  
推進



メディア芸術の  
振興



子供たちの文化芸術  
体験活動の推進



地域における  
文化芸術の振興



文化財の  
保存と活用



美術館・博物館の  
振興

この他、著作権制度、国語についての理解、日本語教育の充実、国際文化交流・日本文化の発信、アイヌ文化の振興、宗務行政などに関する業務を担っています。

## 地域文化創生本部 これまでの主な活動



文化財関連ハンドブック



地元自治体や関係機関との意見交換会



大学等との連携による共同研究の実施



全国高校生伝統文化フェスティバル  
 (共催:京都府、京都府高等学校文化連盟)

### 公式ホームページやSNS公式アカウントで 文化庁の最新情報を掲載しています

SNS公式アカウントでは、「ぶんちゃん」と一緒に、文化庁広報誌ぶんかんの更新情報や地域文化創生本部だよりなど、文化・芸術について幅広く発信しています。



文化庁広報誌「ぶんかん」  
キャラクター ぶんちゃん



「文化庁」で検索

(<http://www.bunka.go.jp>)



@prmag\_bunka

([https://twitter.com/prmag\\_bunka](https://twitter.com/prmag_bunka))



文化庁または

@bunkacho で検索

(<https://facebook.com/bunkacho/>)

## 京都から始まった 新しい取り組み

### ●生活文化の振興等

茶道、食文化など生活文化や、囲碁、将棋など国民娯楽は日本人の暮らしに根差して発展してきましたが、近年では会員の高齢化や減少などの課題を抱えています。創生本部ではこれらについて実態調査や既存事業の実施を通じ、その振興・普及を図るための具体的な施策について検討を進めています。

### ●文化財を活かしたまちづくり・観光振興の推進

文化財の保存・継承には、保護と活用の両面からのアプローチが重要です。創生本部では、文化財の多言語解説とユニークベニュー対応ハンドブックを作成、全国の地方公共団体に配布しました。現在は、先端技術による文化財活用のためのハンドブックの作成に取り組んでいます。

### ●障害者による文化芸術活動の推進

障害のある方々による文化芸術活動を推進しようという機運の高まりを受け、「障害者による文化芸術活動を推進する法律」が成立。本年3月には、国として取り組むべき施策を盛り込んだ基本計画が策定されました。創生本部では、障害のある方々による創造・鑑賞・発表の機会の拡充や、作品の権利保障などに関する取り組み等を総合的に支援しています。

### ●新時代の文化政策調査研究

文化的な活動は経済的価値を生み出すものです。創生本部では、文化の経済的価値を国民経済計算体系に基づき算出する試みを進めています。また、この分野における諸外国の例を調査するとともに、ユネスコを中心として進められている国際的なガイドライン作りの議論にも参画しています。



日本の食文化フォーラム



津和野城VR画像



障害者による文化芸術活動の推進

# 文化庁京都移転の流れ



## ◆新しい取り組み一例

京都での業務を想定した実証実験の実施やテレビ会議システム等のICTの活用により、京都・東京の分離組織における業務の試行・改善の検討を行い、準備を進めています。



2018年度実証実験風景



幹部との打合せ風景



地域文化創生本部も3年目。今年4月から事務局長に就任された三木忠一さんにお話を伺いました。

## 歴史と文化の集積地—京都・関西

もともと兵庫県出身なのですが、京都に住むのは初めてです。7月には祇園祭を見られることを楽しみにしています。京都を含む関西地域は、国指定の重要文化財の約半数が存在するだけでなく、質の高い公演や展覧会が各地で実施されるなど、歴史と文化が身近に感じられる地であり、その中で仕事できることを大変うれしく思います。令和元年の大きな関西の話題としては、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録見込みや、世界各国から博物館関係者が一堂に集まるICOM（国際博物館会議）京都大会が挙げられます。地元京都でも、京都商工会議所主催の「京都・くらしの文化×知恵産業展」をはじめとして、文化面での企画が目白押しと聞いています。創生本部としても、これらの地元の動きと連携を図りつつ、文化行政の新たな展開につなげていければと思います。



堺市提供



## 新しい政策ニーズに対応する「新・文化庁」

これまでに企業や関係団体などのたくさんの方々とお会いする機会をいただいておりますが、文化庁の京都移転が地元で歓迎されていることを強く実感すると同時に、その期待の大きさに身が引き締まる思いです。地域文化創生本部には、近隣地方自治体のほか、京都商工会議所を始め、淡交社、JTB、凸版印刷といった京都に縁のある企業から職員を派遣いただいております。また昨年は、西陣織工業組合から、文化庁創立50周年にあたり文化庁の新シンボルマークを織りこんだ西陣織額を寄贈いただきました（現在は、長官室に飾っています）。このような地元からの御協力には、心から感謝申し上げる次第です。引き続き連携を深めることで、新たな政策ニーズを把握し、政策立案に反映させていきたいと考えています。



次号より、今年4月から出向しているカノマサコが、「文化庁地域文化創生本部だより」をお届けします。